

2026 年 9 月 17 日
住友生命保険相互会社

障がいのある学生へのキャリア形成支援プログラムを実施 ～シンガポールで培った知見を活かし、企業との共創を通じた実践的な学びを提供～

住友生命保険相互会社（取締役 代表執行役社長 高田 幸徳、以下「住友生命」）は、TISI 株式会社（以下「TISI」）と共催で、2026 年 8 月 24 日～28 日および 9 月 1 日に、視覚・聴覚障がいのある大学生 9 名（視覚障がい 4 名、聴覚障がい 5 名）を対象としたキャリア形成支援プログラム「TomoWork タレント・アクセラレーター・プログラム（以下「TAP」）」を実施しました。

TAP は、住友生命職員が中心となってシンガポールで活動を開始した「TomoWork」で培った知見・経験を活かし、障がいのある学生の社会参加・キャリア形成を支援するプログラムです。企業との共創プロジェクトやワークショップ、障がいのある社員との交流、1on1 メンタリング等を通じて、学生が自身の強みや将来の働き方について考える実践的な学びの機会を提供しました。

また、学生と企業が直接対話し、ともに課題に取り組むことで、企業側にとっても障がいや合理的配慮への理解を深め、多様な人材が活躍できる環境について考える機会となりました。あわせて、手話通訳・字幕、資料のテキスト化など、参加学生に応じた情報保障を行いました。

1. 2026 年度 TAP の概要

住友生命は 2024 年度、TomoWork の知見を活用し、聴覚障がいのある大学生を対象としたプログラムを日本で実施しました^{※1}。今回の TAP では、対象を視覚障がいのある学生に広げるとともに、複数企業との連携や生成 AI の活用等、プログラム内容を拡充しました。

項目	内容
実施期間	2026 年 8 月 24 日（月）～8 月 28 日（金）、9 月 1 日（火）
参加者	大学生 9 名（視覚障がい 4 名、聴覚障がい 5 名）
共催	住友生命保険相互会社、TISI 株式会社
協力企業・団体	Haworth Japan LLC、富士通株式会社、三菱電機株式会社、株式会社オートテックジャパン、ほか
主なプログラム	企業との共創プロジェクト、生成 AI 活用、企業・社会人との交流、1on1 メンタリング、成果発表会等

<主なプログラム>

・企業との共創プロジェクト

企業から提示されたテーマについて、学生が自身の経験や意見を共有し、企業担当者との対話や課題整理を重ねながら、チームで提案を作成しました。

・生成 AI を活用した実践的な学び

TISI による講義で生成 AI の特徴や活用方法を学び、その後の共創プロジェクトでも、情報収集や課題整理、アイデアの検討、成果物の作成等に活用しました。

・企業・社会人との交流、メンタリング

企業ワークショップや障がいのある社員との交流、リーダーシップトーク、1on1 メンタリング等を通じ、さまざまな仕事や働き方、キャリアに触れる機会を提供しました。

【プログラムに取り組む学生の様子】



※1 詳細は次の URL を参照ください。 https://www.sumitomolife.co.jp/news/news_file/file/240829a.pdf

2. 企業との共創プロジェクト

TAP の中心となる取組みとして、Haworth Japan LLC と連携し、「多様な人が働きやすいインクルーシブなオフィス・コミュニケーションデザイン」をテーマとした共創プロジェクトを実施しました。

学生は、自身の経験やチーム内での対話、企業担当者との意見交換等を通じて多様な視点を持ち寄り、生成 AI も活用しながら課題を整理しました。9月1日の成果発表会では、これらを踏まえて検討したオフィスやコミュニケーションのあり方を企業等の関係者に提案しました。

学生チームからは、ランチ等の会話で話の流れを把握しづらい場合でも会話に戻りやすくする仕組みや、家具・床材・音・動線等を活用し、空間自体に移動の手がかりを持たせるオフィスなどが提案されました。

共創を通じ、企業側にとっても、障がいの種類だけでニーズを捉えるのではなく、学生の具体的な経験や利用場面を起点に、多様な人材が働きやすい環境を考える機会となりました。

【成果発表会での学生による発表の様子】



3. 参加学生・協力企業からの声

a. 参加学生の声

今回のプログラムを終えて、参加した学生からは次のような声が寄せられました。

- ・企業の課題に取り組む中で、「なぜそれが起きているのか」と問いを重ねることで、解決策を考えるだけでなく、課題そのものを深く捉えることの重要性を実感した。障がいのある自分自身が日頃感じている困りごとでさえ、深く掘り下げて考えることは簡単ではないと気づいた。
- ・最初の数日は発言するタイミングがつかめなかったが、資料を見直し、気になった点を自分なりに整理していくうちに、最終日には自分から意見を出せるようになった。苦手なことも、自分に合ったやり方を見つけながら向き合うことの大切さを学んだ。

- ・参加する前は、まず就職することを大きな目標として考えていた。しかし、企業の方々の話を聞く中で、就職すること自体がゴールではなく、入社後にどのように成長し、自分の強みを生かして貢献していくかが重要だと考えるようになった。
- ・自分だからこそ活躍できる場所を探すことと、立場や障がいに関係なく力を発揮できるものを持つこと、その両方が必要だと感じた。まだ分からないことや不安もあるが、将来に対して、これまでより前向きに考えられるようになった。

また、周囲に必要な配慮を伝えることや、相互に対話しながら働きやすい環境をつくることの重要性について振り返る声もありました。

※参加学生を対象に実施した振り返りアンケートの記述を要約。

b. 協力企業の気づき

学生との対話や共創を通じて、協力企業にとっても、障がいや合理的配慮への理解を深めるとともに、障がいの種類だけでニーズを捉えるのではなく、学生一人ひとりの具体的な経験や利用場面を起点に、多様な人材が働きやすい環境について考える機会となりました。

4. TomoWork について

TomoWork^{※2}は、2019年に住友生命職員が中心となってシンガポールで活動を開始し、教育機関・企業・政府等と連携しながら、障がいのある方の学び・就労・社会参加を支援しているシンガポールの非営利法人です（2021年設立）。

市場ニーズを踏まえたスキルの育成、企業の実課題を題材とした学び、企業社員による講義・メンタリング等を組み合わせたプログラムを展開しており、2026年3月末までに累計536名がプログラムに参加し、72社の企業と連携しています。

※2 詳細は次のURLを参照ください。 <https://tomowork.org/>

5. 今後について

住友生命グループは、ウェルビーイングインフラ企業として保険の役割・価値を上げ、万一の保障にとどまらず、お客さまをはじめとするステークホルダーのウェルビーイングに貢献していく「拡・保険」の考え方のもと、さまざまな商品・サービス・取組みを提供しています。

TAPは、障がいのある学生が企業や社会人との接点を通じて、自身の強みや将来の働き方を考える機会を提供するものであり、ソーシャル・キャリアウェルビーイングに資する取組みです。

住友生命は、今回のTAPを通じて得られた学生・参画企業からの声や知見を今後の取組みに活かし、企業等との連携を通じて、障がいのある学生の社会参加・キャリア形成を支援する取組みの継続を検討していきます。

(よくあるご質問)

① 「TomoWork タレント・アクセラレーター・プログラム (TAP)」とは、どのようなプログラムですか。

- ・ TAP は、シンガポールの TomoWork で培った知見・経験を活かし、企業との共創や社会人との対話等を通じて、障がいのある学生が自身の強みや将来の働き方を考えるキャリア形成支援プログラムです。

② 一般的な障がいのある学生向けの就職支援等とは、どのような点が異なりますか。

- ・ 特定の企業への就職・採用を目的とせず、企業から提示されたテーマへの継続的な取り組みや、多様な社会人との対話を通じて、実践的なキャリア形成につなげる点が特徴です。共創プロジェクトは学生の学びを目的とするもので、企業の商品・サービス開発、調査研究、採用選考を目的とするものではありません。また、学生を一方向的に支援するのではなく、企業側にとっても学びや気づきを得る機会とすることを重視しています。

③ なぜ住友生命が、障がいのある学生のキャリア形成支援に取り組んでいるのですか。

- ・ 住友生命グループは、ウェルビーイングインフラ企業として保険の役割・価値を高め、万一の保障にとどまらず、お客さまをはじめとするステークホルダーのウェルビーイングに貢献していく「拡・保険」の考え方のもと、さまざまな商品・サービス・取組みを提供しています。
- ・ TAP では、障がいのある学生が企業や社会人との対話、実践的な学びを通じて、自身の強みや将来の働き方について考える機会を提供するとともに、参加企業にとっても、障がいや合理的配慮への理解を深め、多様な人材が活躍できる環境について考える機会としています。
- ・ こうした学生の社会参加・キャリア形成を支援し、学生と企業の双方のソーシャル・キャリアウェルビーイングに貢献することは、住友生命の「拡・保険」の考え方につながる取組みと位置付けています。

④ 今後も TAP を継続して実施する予定はありますか。

- ・ 2027 年度以降の具体的な規模や実施方法は今後検討しますが、TAP は障がいのある学生のキャリア形成を支援する CSR 活動として、継続・発展させていく考えです。
- ・ 今後は、より多くの企業に参画いただき、企業との共創や社会人との交流機会を広げることで、学生の実践的な学びと企業側の障がいや合理的配慮への理解の双方につながるプログラムを目指します。

以上